



みやがき ひでまさ
宮垣 秀正

■ 白線などの道路標示の劣化と道路の安全確保対策について
■ 町内会・自治会の課題等と支援について



道路標示の劣化と安全確保対策

問 市道・県道の白線など、薄く消えかけている道路標示等の点検体制はどのようになっているか。

答 市道は、幅員2m以上は年3回、市職員と委託業者が分担して路面標示を含めて道路施設に異常がないかをパトロールしている。県管理道路は、県職員が月1回、委託業者が月4回パトロールを行っている。

問 例えば、広島空港本郷線（船木コンビニ交差点から空港）ではセンターラインや矢印、側線の白線が薄れ、消えている区間がある。夜間、雨天時は視認性が低下して危険なので、早期に補修してどうか。

答 本路線の路面標示の重要性は認識している。県や公安委員会に対し早急な補修を要望していく。



道路標示が消えかかっている

町内会・自治会の課題等と支援

問 住民組織の現状と課題をどのように認識しているか。

答 令和7年5月末時点で、小規模単位の住民組織である基礎組織は全体で504である。住民組織は行政への提出書類等の作成、行事等の企画運営など、様々な業務に対応しているが、役員等の負担が増加して担い手不足になっていることは、喫緊に取り組むべき課題と認識しており、事務負担軽減の検討を進めている。

問 今後、支援強化に向けた取組はどのようにしていくのか。

答 加入促進の取組として、転入手続きの際、加入促進リーフレットを配布するとともに、住民組織で活用できるよう、市ホームページにも掲載している。また、加入手続きがスムーズに行われるよう、デジタル活用を含めた情報提供に努めていく。

その他、現在作成を進めている住民組織の事務ハンドブックに加え、今後は住民組織活動の支援を目的とした出前講座等を検討していく。

一般質問



まさひら ともはる
政平 智春

歴史民俗資料館の展示について

問 8月1日にオープンした歴史民俗資料館の展示には、その時代時代を支えてきた庶民の姿がない。社会を支えてきた庶民、とりわけ農民の姿を展示することが必要なのではないか。

答 往時の社会を構成した庶民について、展示により理解することとは意義深く、大切なことと認識している。資料館として人々の暮らしを展示することを検討する。



歴史民俗資料館の展示風景

問 人々が集まり社会を形成すると、当然、治安の問題が出てくる。治安維持の仕組みについて市史に掲載されているが、どのような「身分」の人々が治安維持に携わっていたかを示す必要があるのではないか。

答 市史には、江戸時代の治安維持の仕組みや役割について、町奉行や役人だけでなく、その他の人々の役割などの記載がある。資料

■ 歴史民俗資料館の展示について
■ 本郷産業廃棄物最終処分場について
■ J R呉線に対する対応について



料の研究が進めば、これらの展示について検討していく。
本郷町南方産業廃棄物最終処分場について

問 県からの文書で、PFOA、PFOSが検出されたが、50ナノグラム以下だから安全だと言われている。これらの物質に毒性はないのか、また、人体に蓄積することはないのか。さらに、河川に堆積することはないのか。

これが浄水に混入しているというならば、ますます危険性を危惧しなければならぬ。我々は、安全・安心な水を飲みたいだけだ。

答 毒性について、PFOASについては、科学的知見がまだ十分ではないが、国内において、体重50kgの人が水道水を生涯毎日2ℓ飲み続けても悪影響がない数値を暫定目標として決められている。



下流河川の沼田川



まつの さん
松野 諭

■市立中学校における自転車通学について
■住宅密集地域での火災時の消火活動等について



市立中学校における自転車通学について

問 本市の市立中学校では、原則徒歩通学を基本とし、一定距離以上や特別な事情がある場合のみ自転車通学を許可する運用が続いているが、許可基準及び距離要件の緩和や見直し、撤廃についての考え方を問う。



答 自転車通学の許可基準は、一律には定めていない。各学校において、駐輪スペースの状況や交通安全上の懸念などを総合的に鑑みながら、要件を設定している。

市内10校中、徒歩通学が1校、4校が距離要件を設定し、要件無しが5校である。重い荷物を持って長距離を歩く事の負担、夏季の熱中症対策、帰宅時の防犯性や安全性の観点から、柔軟化させる必要は認識している。安全性を最優

先に、学校に対し実情に応じた柔軟な対応を指導助言していく。

住宅密集地域での火災時の消火活動について

問 11月に大分県佐賀関で発生した火事は、住宅密集地域で、道幅も狭く車も通れなかったことから、一夜にして180棟以上が焼損する大規模火災となった。海と山が近く、本市でも同様な環境の地域はいくつもあると考えるが、消火活動の困難な地域の把握をしているかを問う。また、火災を想定したシミュレーションを実施しているかを問う。

答 住宅密集地域など、消火活動が特に困難な地域を「消火活動困難地域」として建物の構造や道路の状況等、詳細な調査を実施している。火災発生時には、迅速かつ的確な対応ができるよう備えている。

また、「消火活動困難地域」を想定したシミュレーションを実施したうえで課題を抽出し、万全の消防体制となるよう、装備の充実や消防用水利の整備を行っている。

一般質問



こま さん
生駒 玲子

■窓口における手続きについて
■高齢者の健康増進に向けた取組について



窓口における手続きについて

問 6月定例会で「おくやみ窓口の設置」についての質問をしたが、その後の状況はどうか。

答 7月に行った窓口業務体験調査や窓口担当課へのヒアリングによって明らかにした課題等を整理し、おくやみ窓口に限らず窓口業務全体のあり方について検討を進め、サービス向上をめざす。

問 後援申請の手続きについて、現状では複数の後援を受けるには、それぞれの窓口での手続きが必要だが、簡素化できないか問う。

答 後援名義を承認する担当部署が異なるという行政側の事情により別々に申請手続きをお願いしているが、行政サービスとして改善の余地があると考えている。申請者の負担軽減とともに、利便性向上を図っていく。

高齢者の健康増進に向けた取組について

問 本市のこれまでの取組について問う。

答 知識の普及として、介護予防研修会や認知症講演会などを開催している。また地域活動の支援と

して「ふれあいいきいきサロン」や「いきいき百歳体操」などに取組んでいる。

問 活動に参加される方の裾野を広げる必要があると思うが、未活動の方が活動を始めるきっかけをつくるために、広島市など県内14市町が取り入れているポイント付与の仕組みを本市でも取り入れてはどうか。

答 高齢者の社会参加を促進することは、重要であると認識している。ポイント付与に限らず、効果的な方法がないか、今後も幅広く検討していく。



広島市で導入されているポイント手帳
(対象となる活動をした場合、手帳にスタンプが押され、ポイントが付与される。)



こばやし かよ 小林 香代

■町内会未加入者のごみ収集について
■ヤングケアラーについて
■保育所における障害のある子どもの受入れについて



町内会未加入者のごみステーションの利用について

問 本市の方針としては、町内会の未加入者はどこにごみを捨てることになっているのか問う。

答 町内会等が設置したごみステーションを利用するルールはそれぞれで異なっている。まずは町内会等への問い合わせをお願いしている。

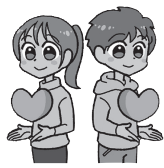
本市では、町内会等に対し、未加入者も掃除当番や維持管理費を負担することでごみステーションが利用できるよう呼び掛けている。町内会等と利用者との話し合いが難航する場合は、本市に相談してほしい。



町内会で設置するごみステーション

ヤングケアラーについて

問 もしヤングケアラーが「家事が大変で勉強する時間がない」と



ヤングケアラー LINE相談

相談した場合、どのような支援策を提示するか問う。また、支援策として、子育て世帯家事支援事業がよく紹介されるが、ヤングケアラーの相談がきっかけで利用されているか問う。

答 相談があった場合は、まず、負担の具体的な内容や、本人が望む状態を確認する。その中で、ヤングケアラーが疑われる事案は、本人の意向を踏まえた上で、家庭訪問等を行う。次に、家事支援員の派遣や訪問看護などの外部支援により、子どもの負担軽減を提案する。一方で、支援サービスの受入れが難しい家庭は、継続した保護者との関係構築を進め、サービス提供をめざす。

子育て世帯家事支援事業は、ヤングケアラー本人の訴えによる利用はない。しかし、支援サービスを活用し、家庭の自立を後押しすること、ヤングケアラーの発生予防を推進していく。

一般 質 問



おかもと じゅんしょう 岡本 純祥

■船木地区の洪水対策となる本郷橋の架け替えについて
■産業団地の確保について



洪水対策・本郷橋架け替えについて

問 本郷町船木地区では、平成以来3度も浸水し、特に平成30年豪雨では、大変な被害にあった。県議会では、河川と道路の一体整備による防災対策について「三原市と連携して取り組んでいく」との答弁があったと聞いているが、次の点を問う。

菅川のバックウォーター対策として、片山頭首工の撤去及び沼田川の河床を掘削する必要がある。

一方、設置から80年経過している本郷橋は、橋脚が6基あり水の流れを阻害していること、さらに、東詰が変則的な交差点となっていることから、洪水対策と一体的に整備する必要がある。県との交渉の現状はどうなっているのか。

答 沼田川流域の浸水被害対策は重要な課題と認識している。堤防の余裕高を含めた片山頭首工周辺の改修による河川断面確保は、菅川・沼田川流域の浸水対策に直結しており、地域の安全確保に効果的な対策と考えている。

国・県への提案活動の中で、片

山頭首工付近の河川改修と本郷橋架け替えは、一体不可分として速やかに実施するよう強く要望した。また、県が検討を進めている令和8年度からの次期ひろしま川づくり実施計画及び広島県道路整備計画に対して、河川改修と本郷橋の架け替えを計画における最重要課題として要望した。



橋脚が6基あり架け替えが望まれる本郷橋

産業団地の確保について

問 本年度、市独自の産業団地開発に向けた調査費用予算が確保されている。また、大規模なものについては、県と連携するとしているが、進捗状況を問う。

答 本市独自の取組としては、西部工業団地の近接地にある本市所有地内での開発について検討を進めている。県と連携した取組については、今年度、国内企業5千社を対象にアンケート調査を実施した。今後は、工場等の新設計画や検討をしている企業に対しヒアリングを通じてニーズ把握を行う予定である。



たかはら しんいち
高原 伸一

沼田川の整備について



沼田川の整備について

問 川底の堆積土撤去や雑木の伐採について、今後の計画や取組を問う。

答 県が管理する河川であり、県は「河川内の堆積土等除去計画2021」に基づき、計画的に堆積土撤去等を実施してきた。計画が今年度までのため、現在、県において次期計画の策定に向けて作業が進められている。

災害後、一定の時間が経過していることから、一部区間で土砂が堆積し、雑木も繁り始めており、市民からも対策に関する要望を受けている。市民の生命や財産を守るための治水対策は重要と考えており、引き続き、本市として県に対し、堆積土や雑木の除去等について要望していく。

問 川の底を掘削して沼田川全体の流量を増やすことが、災害対策に有効とされているが、その際の片山頭首工の扱いについて問う。

答 河川断面の余裕高が確保されていない状況であり、本市としても「二級河川沼田川水系河川整備計画」に基づく片山頭首工付近の

河川改修を喫緊の課題と認識している。

事業化に向け、令和7年7月に実施した主要事業提案において、国及び県などに対し、片山頭首工付近の河川改修は、下流の本郷橋の架け替えと一体不可分の改修が必要であり、河川事業と道路事業を連携して取り組むよう強く要望した。

さらに、県が検討を進めている令和8年度からの次期『ひろしま川づくり実施計画』に対しても、当該箇所の河川改修を最重要課題として要望した。

引き続き、片山頭首工付近の河川改修事業が速やかに実施されるよう、事業主体である県をはじめとした関係機関へ積極的に働きかけていく。



片山頭首工
(本郷町本郷南)

常任委員会報告

(12月定例会付託議案審査及び行政説明案件について報告します)

総務財務委員会



付託議案審査（主なもの）

議113 三原市職員の給与に関する条例及び三原市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について

【概要】令和7年8月の国家公務員に対する人事院勧告に準じて本市の一般職の給与や特別職及び議員の期末手当の改定を行う。

【主な質疑】

問 今回の給与改定の対象者数について問う。

答 退職者を含む全職員で一般職員は約920名、会計年度任用職員は600名である。

問 新設された通勤距離区分が60km以上ある職員数について問う。

答 2名の一般職員が該当する。

【採決】採決の結果、議第113号他4件は、全員一致、原案どおり可決すべきものと決した。

厚生文教委員会



付託議案審査

議118 三原市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例制定について

【概要】「こども誰でも通園制度」事業を令和8年4月1日から実施するにあたり、職員の配置基準や設備の基準等を定めるため、条例を制定する。

【主な質疑】

問 対象となる児童数と利用見込み、また、運用方法を問う。

答 生後6か月から3歳未満の児童で、保育施設に入所していない367人程度を対象とし、1日あたり5〜6人の利用を想定。余裕活用型での実施を予定している。

議119 三原市火災予防条例の一部改正について

【概要】林野火災注意報制度の新設等、所要の規定整備を行うため火災予防条例の一部を改正する。

問 注意報等の発令に関し、市民